

令和5年度の視覚障がい者の職業紹介状況について

令和5年度のハローワークを通じた障がい者の職業紹介状況がとりまとめられ、6月28日に公表されました。これに伴い、令和5年度における視覚障がい者の職業紹介状況について、紹介します。

視覚障がい者の就職状況

令和5年度、視覚障がいを持つ方が新しく仕事を探し始めた件数は4,274件で、そのうち重度の視覚障がい者の件数は2,269件でした。現在、仕事を探している視覚障がい者は9,269人おり、そのうち重度の方は5,130人です。実際に仕事に就いた人数は1,665人、うち重度の方は900人で、全体の就職率は39.0%、重度の方の就職率は39.7%でした。
※重度(障がい者手帳1,2級の方)

どのような職業に就いているのか

視覚障がい者がどのような仕事に就いているのか、職業別に見ると以下の通りです。

- ・専門的・技術的な職業: 594人(うち重度455人)
- ※そのうちのあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の数: 491人(重度: 396人)
- ・福祉施設の指導員: 49人(重度: 24人)
- ・運搬・清掃・包装などの軽作業: 403人(重度: 163人)
- ・事務職: 307人(重度: 144人)

これらの他にも、販売、サービス、製造業など、様々な職業に就いている方がいらっしゃいます。



今後の課題

この状況を踏まえ私たち教職員が、視覚障がいを持つ児童・生徒たちが社会自立のために必要なスキルを身につけられるよう、教育にあたることが大切です。詳しくは次のトピックをご覧ください。また、法定雇用率が2.5%に引き上げられてから、企業側の障がい者雇用に対する動きが少しずつ積極的になってきています。

視覚障がい者に対する求人は少ない状況ですが、盲学校としても法定雇用率の引き上げと関連させヘルスキーパーの導入などについて関係機関に働きかけているところです。

詳細な情報は、厚生労働省の公式サイトでも確認いただけます。

就労についてご質問などがありましたら、どうぞお気軽に視覚支援センターにお問い合わせください。



厚生労働省ホームページ

小学校・中学校でも 社会自立につながる力を育む

前述の通り、視覚に障がいがありながらも、社会で活躍している方が多くいます。では、社会自立(社会の一員として主体性をもって自分自身の生活を送ること)のために、小・中学校の段階で育てておきたい力にはどんなものがあるのでしょうか。

1. 外界への興味関心

興味関心の対象をもつことは、社会に目を向けることにつながります。行きたい、触りたい、聞きたい、見たい、会いたいという意味が活動を引き起こすためです。児童生徒の実態に応じて、聴覚、触覚、平衡感覚などの使い分けを促すことも興味関心の広がりにつながります。動画や写真だけでは興味がもてなかったことも、音声をじっくり聞いたり、実物に触れたりすることで面白さを感じることもあります。一般的に人は視覚情報に注意を向けがちであるため、視覚情報を伏せて提示すると新たな面白さを発見し、興味関心の幅が広がるかもしれません。

2. 社会性

視覚障がいがあると対面する相手にも下を向きがちになることがあります。相手の声がある方へ視線を向けたり、相手との距離で自分の声量を決めたりすることも必要です。また社会では、マナー、礼儀、表情、身なりなども求められます。



3. 人に助けを求める力

社会自立を考える際に大切なポイントは、人の助けを求めてもよいということです。自立とは、誰の手も借りないことではありません。自分で可能な情報収集や技能を駆使した上で、障がいの状態では得られない情報を尋ねること、不可能なことや安全に関わることは必要に応じて援助を求めることが重要です。個人の性格によってはハードルが高く感じる場合もあります。家族、先生、友だちなど助けを求められる人を少しずつ増やしていきましょう。(参考「見えない・見えにくい子供のための歩行指導 Q&A」/ジアース教育出版/平成28年)

2024 オリンピック&パラリンピックが終わりました。

9月8日にパラリンピックの閉会式が終わり、2024年のオリンピック&パラリンピックが全て終了しました。両大会とも、前回の東京大会を大きく上回り、オリンピックでは45個、パラリンピックでは41個のメダルを獲得しました。日本はオリンピックの勢いをそのまま、いやそれ以上にパラリンピックで発揮し、選手たちのすばらしい活躍が連日のニュースで放送され、盛り上がりました。

視覚障がい者の競技でも、水泳や柔道、陸上でも多くの選手たちがメダルを獲得し、前回の通信で紹介したゴールボールでは、男子が延長の末、見事逆転し金メダルを獲得しました。「東京大会で悔しい思いをしたので、この3年間、必死に頑張ってきました。」と。他の競技でも、「自分一人で戦っているのではない、最後まで諦めない」と目には見えない様々な思いを、最後までこの大会で発揮したのだと胸が熱くなりました。次回の開催は、4年後の2028年、ロサンゼルス大会となります。



話は変わりますが、見えない・見えにくい子供たちは、日常的に鏡を見て自分の姿を確認することが少なく、どうしても楽な姿勢や猫背になってしまいがちです。体の各部位を縮めるのではなく、逆に伸ばしてみましょ。手に力を入れて開く、手の指を引っ張る・そらす、足の指を掴んで開く、顔を上げて胸を開く、上半身を反らしてみる、耳を掴んで引っ張る・回してみるなど。最初は少し痛いかもしれませんが、慣れてくると気持ち良く感じられると思います。

オリンピック&パラリンピックの勢いを機に、選手たちだけでなく、私たちも体を使ってできることから運動を始めてみるのはいかがでしょうか。